



LD親の会「けやき」機関紙

第86号

2008年10月発行

発行者・代表 三輪 覚子 〒198-0014 東京都青梅市大門 1-787-8
けやきホームページ URL <http://www.ne.jp/asahi/hp/keyaki/>

次へと進むために

前夜まで、あわや関東直撃かと心配した台風13号も東の海上に逸れ、抜ける様な青空の広がった9月20日（土）こまばエミナースに於いて、20周年記念講演会と祝賀会を開催いたしました。

私たちの「けやき」は、1988年の設立からちょうど20年の節目を迎えました。この長い年月の間に、本当に多くの方々に支えていただきました。発足当時の須崎会長を中心とした会員の皆様の努力と、後を引き継いで次へとつなぎ続けた歴代の会長・役員・会員の方々の協力、そして20年間変わらぬご支援とご指導をくださった上野先生をはじめ関係者・関係諸機関の皆様方のお力添えで、今日に至りましたことを心よりお礼申し上げます。

この度の会員の皆で力を合わせて記念講演会と祝賀会を開催し、20年の活動を記念誌としてまとめ冊子にすることが出来たことは、「けやき」がさらにこれから先へと進むための自信になったと確信しています。これまで皆様方いただいた「けやきの財産」を大切に守り続けるとともに、発達障害児・者のために活用して、さらに大きく力強いものにしていきたいと思っています。また、親自身が学び、お互いを高め合えるような親の会の活動を、これからも続けていけるよう頑張る所存です。



まだまだ助けていただく場面の方が多いかと思いますが、いつも前向きに元気な「けやき」でありたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

三輪覚子

全国LD親の会総会が開催されました

6月21日（土）国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第16回全国LD親の会総会が開催され、平成20年度活動方針、予算などの議案がすべて可決されました。新体制として、会長に内藤孝子さん（大阪おたふくの会）が就任され、昨年度から引き続いてご尽力くださる理事の皆さんとともに、全国の活動をまとめてくださることになりました。

さらにNPO法人全国LD親の会設立総会も続けて行われ、すべての議案が可決されました。今秋には任意団体からNPO法人へととなります。

全国LD親の会研修会に参加して

今年のテーマは「発達障害のある人の就労と課題」で、城西国際大学福祉総合学部助教授の向後礼子さんと、東京都知的障害者育成会の宮武秀信さん、のお二人が講演なさいました。

はじめに、向後さんは障害者職業センターにお勤めされたこともあるということで、発達障害の言葉の定義から始まり、職業への移行支援の課題、職業評価と進路の選択、進路変更の課題、就職の適時とサービスの選択等について話されました。

- ・同じ困難を抱えていても本人の“自覚がある”“自覚がない”の場合によって支援できることが違ってくる。在学中に支援策が具体的に検討され選択されたかにより、問題が先送りされない。
- ・通常教育に進んだ人が職業生活に適応準備期間がないまま就労している。個人としては、高校3年間プラス職業リハビリに2年間の計5年間を目安にした方が定着率は良くなると思われる。などの具体的なご指摘がありました。

次に、宮武さんは知的障害者雇用の概況、国の動き、就労移行支援の現場、地域ネットワークについて話されました。世田谷にある“スキップ”では、本人の希望を含め個別目標支援プログラムが作られ、1年半から2年ほどで就労に結びついているということです。東京の土地柄か国の機関が多くあり、国が障害者雇用の姿勢を示すことで、地方へそして民間へと広がるよう活動なさっていらっしゃるそうです。

短い時間に盛りだくさんの内容でしたが、向後さんのお話は進路選択の子を持つ私にとって、今一度時間をかけお聞きしたいと思いました。

畑



7月例会報告

テーマ 「発達障害と向き合う時を考える」

講師 田中 容子氏（三鷹市教育委員会）

時：7月19日（土） 所：東京しごと財団セミナー室

初めに、学齢期、就労期のお子さんを持つお母さん方2名のお話を伺い、次に田中先生の講演をお聞きし、その後質疑応答という形の充実した内容の例会でした。

個人的なことで恐縮ですが、今回お話をして下さったお母さん方には、入会以来大変お世話になっており、お子さん方の様子を断片的に聞く機会も、今まで度々ありました。しかし、親御さんのしっかりした教育方針、努力、お子さんの心理的葛藤と成長について詳しく知ったのは、今回が初めてでした。特に本人の葛藤…障害の認知、受容…につきましては、現在19歳の我が子も、その壁にぶつかって何年も苦しんでいるだけに、大いに共感するところがありました。と同時に、親としていかに自分が何もしてこなかったかということ、親も意識を変えなければならないということを知り、反省いたしました。

一方、田中先生は「きこえとことばの教室」で教えてこられたご経験と、今居られる三鷹市の教育委員会でのお立場から、「気になる子」への取り組みが教育現場でどう成されているか、について分かりやすくお話してくださいました。先生方も様々な内外の関連機関と連携をとりながら、子どもたちを支えようとして下さっている。ということが良く理解できました。しかし、こういった取り組みには地域によってまだ差があるとも言われています。最後の質疑応答の時にも話題に上りましたが、発達障害についての正確な情報もかなり不足しているようです。私自身、「子どもをLDだのADHDだのと分類すること自体間違っている」と教職経験のある人から言われ、困ってしまったことがあります。いかなる障害であれ、診断名をつけるのは、その人を差別するためではなく、支援する為、との認識（上野先生のお話の受け売り？）が浸透すれば周囲の理解も得やすくなり、ひいてはそれが本人の受容につながっていくのではないのでしょうか。

中道

参加者の感想



- ◆田中先生のお話からは、カミングアウトについて親の考えを整理する事ができました。（きちんとした診断等受けていないので…グレーかしら）本人の気持ちを尊重しつつ親ができる範囲・健康が続く限りでサポートしていきたいと思いました。
- ◆浅井さん・新堀さんのお話は、同じ母親の立場として参考となるところがたくさんありました。現在、本人は私立工業系理数科で勉強しつつ運動部にも入っており、浅井さんの息子さんに似ているかしら…と思いました。目下の目標は「留年しない…」というところです。家族で就労についても時々話題にはしていますが、なかなか難しいです。
- ◆いろいろなケースも交え、専門家の立場から具体的なことが聞けてよかったです。特に手帳にからむ話は参考になりました。
- ◆様々な有益な情報を得ることができました。会に入会できてよかったです。

教科書のバリアフリー化に向けて一歩前進

障害者放送協議会著作権委員会委員長 井上芳郎

2008年6月10日、「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」という長い名称の法案が、衆議院本会議において全会一致で可決成立した。遅くとも9月中旬までに施行され、2009年度採用教科書から適用される。なお「教科用特定図書」とはこの法律で新たに定義された用語で、従来の「拡大教科書」と「点字教科書」とを指す。

この法律は、主に弱視児童生徒の教育や支援に携わる関係者からの長年にわたる働きかけにより実現したもので、これまで不十分であった拡大教科書の供給体制整備を、国の責務として明確化させ、また拡大教科書の製作を促進させる目的から、ボランティア団体等へ原稿用デジタルデータを提供するよう教科書出版社に対し義務づけた。なお障害者放送協議会著作権委員会としても、2007年5月と7月の二度、文化審議会著作権分科会小委員会の意見聴取の場で要望してきている。

さらに、発達障害等の理由で通常の教科書での学習が困難な児童生徒にも拡大教科書等の活用ができるよう、調査研究を推進するものとした。関連して著作権法第33条の2の一部が改正され、はじめて著作権法において「発達障害」等に対する配慮が明記された。

この法律では、発達障害等の児童生徒が使用する拡大教科書等に関する調査研究を、国の責務として推進することも謳われている。発達障害の児童生徒に拡大教科書を無償供与するのは当初は困難だとしても、保護者からの要望や学校現場での判断で利用できる可能性が広がったのであるから、今後は積極的に活用していくべきである。

発達障害等の児童生徒に対しての拡大教科書等の学習支援効果について、特に学校現場での実践的な調査研究の推進力が必要になる。ここで拡大教科書「等」としたのは、紙ベースのものではない、例えばDAISY (Digital Accessible Information System) のようなデジタル化されマルチメディアに対応した教科書の活用が期待されるからである。読みに困難のあるLDやディスレクシア (読字障害) の児童生徒に対して、マルチメディアDAISY化された教材を使った支援が、すでに一部で始まっており成果を上げている。

今回、著作権法第33条の2が併せて改正され、複製の方式について「拡大」のみに限定せず「必要な方式により…できる」とされたのは、このような将来のDAISY準拠のデジタル教科書の作製と活用を促進するための条件整備であると捉えるべきである。

(発達障害等のある児童及び生徒が使用する教科用特定図書等に関する調査研究等の推進)

第七条・国は、発達障害その他の障害のある児童及び生徒であつて検定教科用図書等において一般的に使用される文字、図形等を認識することが困難なものが使用する教科用特定図書等の整備及び充実に図るため、必要な調査研究等を推進するものとする。

(教科用拡大図書等の作成のための複製等) ※改正著作権法

第三十三条の二教科用図書に掲載された著作物は、視覚障害、発達障害その他の障害により教科用図書に掲載された著作物を使用することが困難な児童又は生徒の学習の用に供するため、当該教科用図書に用いられている文字、図形等の拡大その他の当該児童又は生徒が当該著作物を使用するために必要な方式により複製することができる。(以下略)

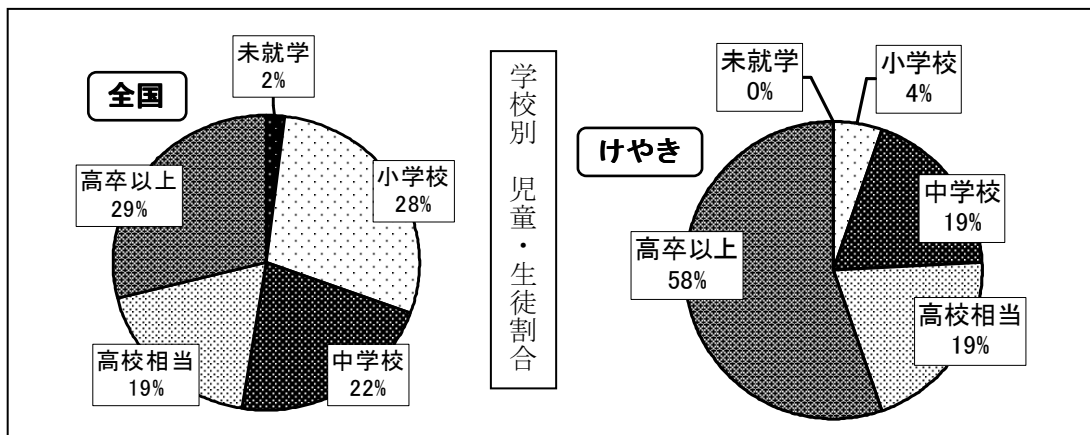
【参考】この法律の全文については、次のサイトなどを参照されたい。

http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/copyright/barrier-fre_houman.html

※本稿は雑誌「ノーライゼーション」2008年8月号所収より抜粋し補筆したものである。

■情報コーナー■

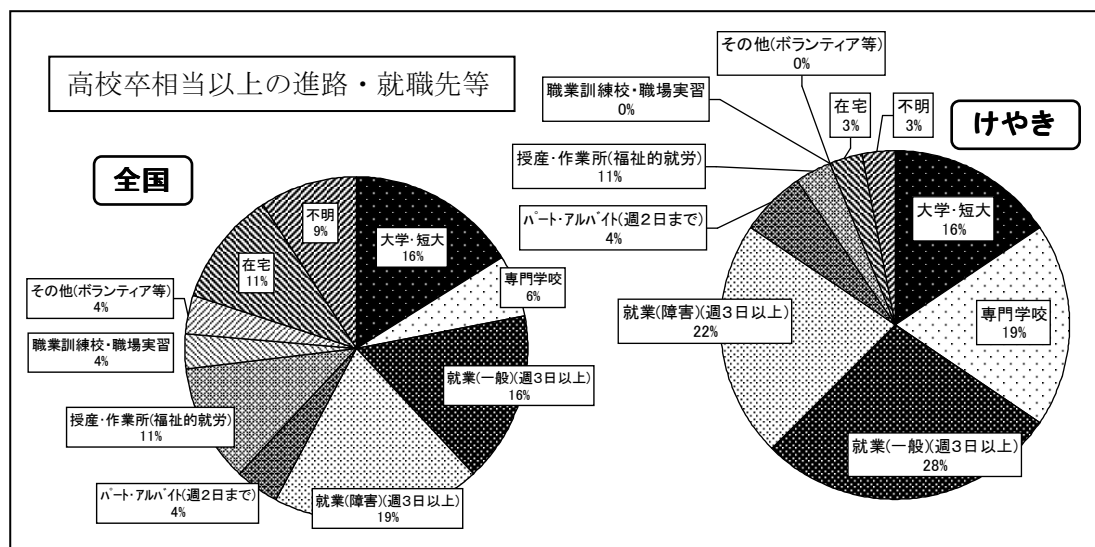
けやき会員と全国親の会との子どもの構成を比較してみました（08年6月現在）



学校種別・在籍人数

種別（小・中学校）	全国		けやき	
	小学校	中学校	小学校	中学校
普通級（通級利用なし）	325	320	1	8
普通級（通級利用あり）	208	44	2	1
特別支援学級	235	207	0	1
特別支援学校	1	22	0	1
フリースクール等	0	2	0	0
その他・不明	103	77	0	0
計	872	672	3	11

種別（高校相当）	全国	けやき
普通化	274	7
専門学科 （商業・工業・農業）	51	1
総合学科	16	0
高等特別支援学校 特別支援学校	116	1
高等専修学校	39	3
専門学校	12	0
フリースクール	5	0
その他	7	0
不明	47	0
計	567	12



けやき20周年記念・講演会（9月例会）報告

時：9月20日（土） 所：こまばエミナース



学芸大学教授上野一彦先生による講演会は「今後の特別支援教育を展望する」と題し、20周年記念講演会という9月例会を拡大しての取り組みでしたので、外部一般の方々にも多数ご参加いただきました。

常に親の会に心を向けていてくださる先生のお話からは、LDと向き合う基本の心構えを教えていただくことがありますが、今回LDの意味をめぐっての「学習の仕方がちがう」という言葉には、全く同感いたしました。



また、「けやきの新たな前進を願って」と副題にさせていただきましたが、先生からの「支援員を親の会で育てる」というご提案には大変関心を持ちました。もう少し詳しくお聞きしたいと思っています。

途中15分間の休憩には、記念行事のイベント的な物をとドリンクサービスを計画し、中学生のお子さんにボランティアスタッフを募集したところ、8名（中学生5人・高校生1人・ボランティア会員2人）が集まり、活躍してくれました。

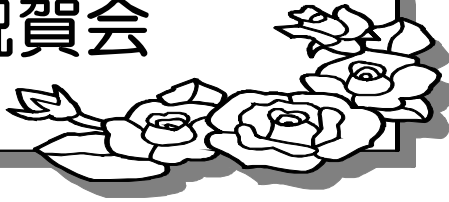
「お手伝い」的な位置付けですが、挨拶をしたり、注文に応じて答えたりする体験は大切なことだと思います。スタッフの皆さんご苦労様でした。



続く後半の質疑応答には、参加者より質問用紙に記入いただいた質問を、先生にお答えいただき、会場の方々と共に考え合う貴重な時間を過ごすことができました。



けやき20周年記念 祝賀会



講演会に引き続き、同会館内で会場を移しての祝賀会には、上野先生をはじめ、同じ親の会として連携をいただいている「にんじん村」森野様・内藤様・津田様、「くじら」吉野様、賛助会員の根本様・太田様、そして元会長の山形様ご夫妻・岩本様・森様奥様にご出席くださり、現会員とご家族あわせて49名にて楽しく交流することができました。皆様方には、本当にお忙しい中を「けやき」のためにとご都合をつけてくださいましたこと、心より感謝申し上げます。さらには、全国LD親の会会長の内藤様より祝電とともに、心のこもったメッセージメールもいただきました。また、残念ながらご欠席された方々からもメッセージを寄せていただきましたので、全員のお言葉も披露させていただきました。本当にありがとうございました。

式次第では、上野先生にお礼の花束を差し上げた後、乾杯と会食、ご来賓の皆様からのご挨拶をいただき、一本締めでの御開きまで和やかな2時間であったと思います。

もちろん、この行事の成功は、今年度の役員の皆様が司会・受付などの運営を積極的に担当くださったおかげです。あらためてお礼申し上げます。適材適所に力を発揮して、率先して活動するすばらしいお父さん・お母さんたちで、本当に心強く感じました。

会員の皆様、これからもご協力よろしくお願い致します。

三輪覚子





◆今までの特別支援教育の歩みから、現状そして将来はどうあるべきかまで、体系立ててよく分かりました。わが子はいわゆるスローラーナー。適切な支援が受けられて、適切な教育が受けられる、どの学校でもそのような体制が整えられることを望みます。そのためには、親（親の会）がますます頑張らねばいけないと思いました。

◆母親のみで参加しましたが、上野先生のお話は父親にも聞かせたかったです。LD だけでなく全ての（世界の）子どもたちの幸せを考えていってほしい、お話を通じて伝わってきました。現在の特別支援教育の状態がよく分かりました。

◆介護の先生の仕事の内容が分かりよかったです。わが子は支援学級（固定）で、中学3年です。学校での行事の他には、通級学級の子どもたちとの交流もほとんどありません。今日の講演を聞いて、何ができるのか具体的なものは今は分かりませんが、それでも通常学級の子どもたちが学習していることをしていなかったりするので、これからは声にしていこうと思います。

◆一人一人症状の違う発達障害の子どもを持つ親にとって、その子の問題解決方法も一つ一つ違い、それがあたり前と思えば孤独に悩んでいました。親の団結力の必要性と素晴らしさ、そして可能性を感じました。

◆まだ子どもが3才で、この先どのように育てていったらよいか悩むことが多かったのですが、今日の先生のお話を伺って何か光が見えてきたと思います。少なくとも「愛の手帳」を取得して、今後の教育の場や機会を広げてあげなければ（広げてあげたい）と思えるようになりました。

◆娘が小学校に入学し遅れが目立ってきて、特別支援について学校・教育委員会と相談中ですが、専門である上野先生のお話は非常に役に立ち、また励みにもなりました。できれば、もっと時間を長くって欲しいです。

◆就労して3年経つので、就学の時の事を忘れていました。今回の話から、少しずつ学校の支援の制度もよくなってきつつあるということを知り、うれしく思いました。これから、子どもが年を重ねていく中での問題を見据えつつ、自分も何かできる事（お手伝いできる事）があるのかなど、考えさせられました。

◆私は福祉関係の仕事をしていましたが、自分の子がLDという認識がありませんでした。問題を感じていましたが、講演を聞く中で認識することができました。本人は障害の受け入れを半分くらいの状態ですが、いろいろと話してきてほしいと思っています。

◆現在娘は不登校になっており、情緒障害児学級（他校）に通い、約1年かかって自分の居場所と心のよりどころを得た状態です。LDである事、苦手でやりたくない事があり授業中にどう対処したらよいか方法を考える事、本人に伝えて納得させる事等、難しく大変です。上野先生が話された事が実現し、いろいろな事が普通に行われるようになると、子どもたちももう少し楽になるのでしょうか。

※紙面の都合で掲載できませんでしたが、「大変参考になった」「励みになった」「素晴らしかった」「勉強になった」等たくさんの感想をお寄せいただきました。ありがとうございました。

11月例会のご案内

LD親の会「けやき」および自主グループキャリア教育講座「Wing」共同開催

テーマ「発達障害者の未来を考える」 ～就労・生活を語り合う集い～

都内にある支援機関の中核でご活躍されている方々に講師としてご参加いただき、テーマ別（それぞれの専門分野）での全員参加型グループミーティングを中心に、相談・対話・話し合いを通して一緒に考えていく場にしたいと思います。

日 時 2008年11月30日（日）13時～17時

場 所 国分寺市Lホール（JR中央線国分寺駅 駅ターミナルビル8階）

コーディネーター

○神奈川県立保健福祉大学 教授 松為 信雄 氏

講 師

○独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構

東京障害者職業センター 所長 岡野 茂 氏

○ハローワーク渋谷

専門援助第2部門 統括職業指導官 加藤 辰明 氏

○千代田区障害者就労支援センター

コーディネーター 大形 利裕 氏

○大東コーポレートサービス（株）

代表取締役社長 山崎 亨 氏

○都立南大沢学園特別支援学校

進路指導担当 市村 たづ子 氏

※ 資料代 1,000円（けやき会員は無料）

※ 会員以外の方は、お名前・お立場・連絡先を明記の上、下記まで申してください。

※ 事前に質問や相談をお受けしますので、申込時に、支援者・保護者としての悩みや相談事項をお寄せください。

E・メール : keyaki@box.club.ne.jp

FAX : 020-4666-7443

8月役員会と各グループの活動報告

時：8月30日（土） 所：多摩障害者スポーツセンター

<連絡事項>

- ◎JDDネットワークで医療費、教育費の3000人アンケートを実施
- ◎東京LD親の会連絡会で東京都への要望書を例年のように行う。

9月の後半に提出予定

<報告>

- ◎教育部会：10月の部会で去年のアンケートを元に学校以外のことを話し合う
- ◎就労部会：東京経営者協会・障害者雇用相談室長の畠山千蔭さんの話を聞く

10月18日（土） 13:00～くにたち福祉会館

Wingでの会社訪問に、就労部からも参加を呼びかける

- ◎けやき八王子：8月30日 キャンプ実施

■自主グループ報告■

ポーレ ポーレ

*4月12日（日）調理・焼きそば作り

材料の買出しの後、焼きそばを作りました。
調理をしながらいろいろな話ことができました。

*5月11日（日）葛西臨海公園

メンバーの「千葉に行きたい!」という発案で行き先が決まりました。

水族園やその中にある食事処、淡水園などで3時間ほど過ごし帰りに海へ行きました。

海の生き物に驚いたり、食事では普段のようすをお互い聞きあったりしてゆっくりとした時間を過ごす事ができました。

*6月29日（日）・野球観戦

西武球場に西武ロッテ戦を見に行きました。西武ファンが多い中、見事9対5で西武が勝利。ホームラン両チーム5本と見ごたえの多い試合でした。

*7月13日（日）・スポーツ

スポーツセンターの体育館で野球をしたりバドミントン、卓球を楽しみました。

*8月16日（土）17日（日）・夏の宿泊（鎌倉）

大仏、銭洗い弁財天、鶴岡八幡宮見学。

夜はお楽しみのバイキングの夕食、ゲーム大会、野球観戦等、思い出がたっぷりできました。

*9月28日（日）・散策

谷保天満宮まで歩いたり、近況報告をしました。

今年度も月1回、主に第2日曜日に活動を行っています。

メンバーが企画ごとに担当者となり、下調べや他のメンバーへの連絡などボランティアさんの助言を受けながら活動を計画、実行しています。



キャリア教育講座 Wing

4月から始まったWing!今年「けやき」が日本財団、キリン財団から助成金を頂き、大きく展開しています。
代表 新堀和子

- 1) 最近あった出来事、今日の気分
 - 2) 本日のキーポイント表の説明
 - 3) 講座開始
 - 4) 休憩 (お茶の時間)
 - 5) キーポイント振り返り表
 - 6) 親の感想票回収
- ・5月焼きそば実習・6月専門家の話・7月職業センター体験・8月合宿(事業所見学)・9月PATH
・10月学生と社会人の違い(就労している先輩の話聞く)



東京障害者職業センター体験



(株)キューピーあい湯田社長の講義

夏の合宿報告

・8月22日(金)～23日(土)

伊豆高原ルネッサ赤沢

平塚にある(株)研進の工場見学後をして、伊豆高原で講座、バーベキュー、温泉の後は(株)キューピーあいの湯田社長、南大沢学園特別支援学校の市村先生、神奈川県立保健福祉大学の松為教授、日本財団の山田氏も加わり、親だけの話し合い。充実した内容の合宿でした!!
ボラさん皆さんおつかれさまでした

PATH (パス)・9月14日(日)

たすく 齋藤宇開氏

(作業を入れたコミュニケーション)

夢を追い求めた時間を持つことの大切さ。一人の人の夢を共有し一緒に語り合うとき、優しさがあふれました。

どのグループの人もいい顔をしていましたよ。



■書籍紹介■

<ビジュアル版>

LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究報告書

定価 1,000円(会員価格 600円) A4判 106ページ

*平成18年・19年の2年間の研究により数多くのサポートツールを収集・整理し、新規開発・実証研究を行った上で厳選してまとめました。

<総合版>

LD等の発達障害のある高校生の実態調査報告書 (全国LD親の会・会員調査)

定価 1,200円(会員価格 800円) A4判 144ページ

*全国LD親の会では、2005年12月から2006年3月にかけて高校生の子どもをもつ保護者(会員)と本人(会員の子ども)にアンケートを実施し、その調査結果をまとめました。

■お知らせコーナー■



日本LD学会 公開シンポジウム

日時 11月20日(土) 10:00~16:00

会場 名城大学 天白キャンパス(名城ホール) 北館N101

参加費 1000円(事前申込みは不要です。直接会場へお越しください。)

テーマ 「特別支援教育における連続性の構築」～幼児期から思春期に至る～

日本LD学会17回大会・特別支援教育士資格更新基本研修

開催日 11月22日(土)~24日(月)

開催地 広島大学・東広島キャンパス(広島県東広島市)

【大会メインテーマ】

「クリニックからクラスルームへ」——教育が果たすべき役割——

◎親の会シンポジウム 11月23日(日) 16:30~18:00

「教材教具を特別支援教育で活用していくために」

◎各親の会紹介ポスター展示

日本発達障害ネットワーク(JDDネット)第4回年次大会

日時 2008年12月13日(土)・14日(日) 9:00~17:00

会場 目白大学 新宿キャンパス(東京都新宿区中落合4-31-1)

編集後記

20周年記念講演で、「LDや発達障害の子どもは、早期の職業準備教育が必要であり、天職という考え方に基づけば職人的な仕事に合う」という上野先生の話に考えさせられた。「芸術家は一つでもいいものさえ作れば仕事になるが、職人は同じものを間違いなく同じように作れなければ仕事にならない」と言っていたある職人さんの言葉を思い出した。LDや発達障害の子どもにもそれぞれに天職があると思う。マニュアルがあつてきちんと教えられれば、十分に職業能力としての技を獲得できていけないのではないか。ただ、今の時代その子どもたちを受け入れてくれる土壌や受け皿が乏しい。高度経済成長期と平行して、機械化・自動化・さらにIT化が推し進められたことによって、日本の古き良き職人的徒弟制度は廃れてしまったかのようだ。だが、日本の何処か片隅で意外と脈々と受け継がれていたりするかもしれない。日本人の職人的物づくりの伝統は、LDや発達障害児・者にとって一つの光明だといえるし、これからもそうであって欲しい。三輪高二